

HopStepJump



授業づくり⑤

<http://toyono-jinjikyoo.com/>

～ 授業の導入・展開・まとめについてⅢ ～

第 8 回の初任者研修は、前回に引き続き大阪教育大学附属池田小学校・中学校を会場に行いました。小学校は 5・6 時間目の授業を、中学校は 6 時間目の授業を見学し、授業後に附属の先生と研究協議を行いました。

子どもたちの豊かな語彙、自分の言葉で説明しようとする姿、子どもの発言を次の学びへとつなげる先生の発言。授業が進むにつれ、子どもたちの学びが広がり、深まる授業を実際に見学することで、たくさんのことに気づき、教材研究の奥深さと意義を改めて感じた初任者も多くいました。

研究協議では、子ども主体の授業を支える授業者の意図、授業づくりに対する考えや思いを知ることによって一層確かな学びになりました。また、授業者の先生が初任者の質問に対して丁寧に答えくださり、安心・納得する様子も各教室で見られました。

《小学校》

～振り返りシートより～

◆授業見学より

1 時間の見通しを立てやすいめあてを設定することで、子どもたちもゴールがしっかりと把握できると思いました。子どもの気づき、発見を関連づけながら、学びを深めていくためには、教師自身が深く、教材研究をしておかなければできないと改めて感じました。子どもたちの気づきがすばらしいと強く感じました。それを引き出す発問をしていくのが私たちの役割だと思いました。

一つの発問に対して、子どもの意見をたくさん聞き、またなぜそのように考えたのか等も聞きながら、考えを深めていく流れが参考になりました。子ども自身が一人で考えたり、ペアで考えたりする時間が多くあって、考えを周りと共有しながら学ぶ大切さも改めて感じました。

360° カメラなど ICT を使うことによって子どもたちの意欲や興味がとても高くなると感じました。ぜひ使ってみようと思います。導入において、前時のかげふみから気づいたことを発表していましたが、そういった実際の体験をもとにした導入で、子どもたちが話そうとする意識が高くなっているようでした。

前時でかげふみをしているということで、教室の枠から出て、実感を伴う授業を日頃からされていると思いました。まとめは、こちらから提示することが多いのですが、子どもたちが自分でまとめることで理解につながると思ったので、少しずつ取り入れていきたいと思っています。

詩の学習は、1 つの詩について考えたり、読み込んだりして学習するものだと思っていましたが、共通点、相違点がある 2 つの詩について比較することで、子どもの気づきが増えることがわかりました。

◆研究協議より

子どもたちの意見を大切にしようとしすぎて、自分が話しすぎていることに気づきました。意見を大切にすることこそ、子ども同士が話す機会をつくることや私が反応しすぎないことも大切だと思ったので、すぐ実践していきたいです。

子ども同士の中で、子どもの言葉で納得させることの大切さがわかりました。つききれいに、わかりやすくまとめようとしてしまいますが、それが反対に(子どもにとって)わかりにくくなることもあるとわかりました。2 つの授業を見て、子どもの言葉を待ってゆったり進めているにもかかわらず、そうすることで子どもの活動が充実し、結果的に集中できる、間のびしない授業になっていたのが印象的でした。

少人数だったこともあり、みなさんの思っていることや考え、気づきを聞くことで、自分と違ったものを知ることができ良かったです。質問することで、自分の学びにもなりとても良かったです。多くの質問に答えていただき、ありがたかったです。参考にして授業に取り組みたいと思いました。

一つひとつの活動に意味をもたせることの大切さを学びました。こういう意図があるからこそこうするというのを、しっかり自分の言葉で言えるように、教材研究にもより一層力を入れていこうと思いました。

動作化をすることによって、詩へのイメージが深まっていたり、子どもの集中力が戻ったりと、自分の授業にもっと取り入れたいと思いました。子どもから出てきた発言をより大事にし、また、子どもの変化に目を向けることで、子ども自身が自分を評価でき、意欲につながることを学びました。

《中学校》

◆授業見学・研究協議より

私が理想としているテンポ、メリハリがとてもある授業だったので、参考にしたい点がたくさんありました。研究協議でも多くの方と意見交流ができ、共感でき「なるほど！」と思ったこともたくさんありました。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてまだまだやらなければならないことがたくさんあると実感しました。まずは、今の自分の授業を振り返ってみることが大切だと思います。そこから、少しずつ実践できそうなことをどんどんチャレンジしていきたいと思います。

子どもたちをどんな授業で惹きつけていこうかと悩んでいました。授業の中で、子どもたちが学びやすいルール作りや授業のアイデアなど、参考になるものがたくさんあり、明日から取り入れたいと思いました。特に、「問題を解いて、答えを確認する」という授業ではなく、「子どもたちが考えたものが答えになる」授業だったと感じました。“生徒を惹きつける活動”は、その一つひとつがおもしろいかどうかではなく、一つの授業の中で、つながりがわかりやすく、子どもたちが自分のこととして考え発信できる活動だと思いました。授業の前に、もっと流れを細かく計画する必要があると思いました。

教科の内容を日常生活と関連づけ活用させたり、次の単元を学ぶ意義につなげたりといったことがとても大切だと気づかされた研修となりました。単に、授業の内容を教えるのではなく、そうしたつながりをもたせるという視点が自分の授業に欠如していた部分だと感じました。色々な意味で、教材研究の幅が広がった一日となりました。

改めて授業することの難しさ、大事さを感じることができました。授業の展開、発問の仕方、生徒への声かけなど一つひとつ丁寧に教えていただき、今後の授業に向けて取り入れるための材料をたくさん知ることができました。

授業のスタイルについてずっと定まりきらず悩んでいたのが、今回の授業の流れを見せていただき、大変参考になりました。生徒が前のめりになるような楽しく、おもしろい授業をつくっていけたらと思います。初任の先生方が同じようなことで悩んでおられて、共感したり、励まし合ったりできて力をいただきました。明日からまた頑張ります。

“他の先生の授業を見る”そこから学び、自身の授業改善へつなげる。今は、初任者なのでその機会が多くあるかもしれません。その機会を大切に、初任者研修を終えてからもその機会を自らつくり、授業づくりに真摯に向き合い学び続けてほしいです。最後に、2年目の先生の振り返りシートを紹介します。

ペアでの話す時間のつくり方など、自分自身と似ている部分もあって自信につながりました。グループワークに関しては、指示の仕方「何を」話すのかなどをもっといねいに考えて、授業に臨む必要を改めて感じました。子どもの実態に合わせて考える必要があるという話もしていただいたので、一つひとつの活動が本当に効果的か、全員が安心して授業を受けられているか、再確認しながら授業をつくっていこうと考えました。2年目の今日も授業について考え、自分の授業を振り返る良い機会となりました。